

新しい大阪へ

橋下「維新」政治

「大阪都」構想が5月の

「大阪会議」は大阪全体

大阪市の住民投票で否決されたあとに設置された「大阪戦略調整会議」(「大阪会議」)が橋下徹大阪市長、松井一郎知事らによる無理難題の持ち込みで決裂状態が続き、実質的な審議に入っていない。同会議委員の日本共産党の山中智子大阪市議団幹事長に会議の実態と橋下氏らの行為をどう見るか聞きました。

(大阪府・小浜明代)



党大阪市議団幹事長 山中 智子さん

「維新」も賛成して設置されました。3人の首長と各議会から9人の議員の30人で構成されています。

「政治の中身」

私たちは「都」構想を否決した民意は「統治機構」の改革ではなく、「政治の中身」の改革を求めるものであり、「無駄な二重行政」はないというのが市民の声だと考えています。「大阪

会議」については、それぞれの自治体の施策はそれぞれ

で決めるべきなのに場合によっては議決まで行うとされているため自治権の侵害になる可能性や、「二重行政」があるかのような文言が設置目的のなかにあるの

は住民投票での市民の願いに背きかねないとして設置に反対しました。設置された以上、府民と市民の役に

たつ前向きな議論ができるようになりたいという思いで参加しています。

ところが橋下市長たちは第1回会議で「規約に都構

議で行うことに固執するな

想の対案だと明記せよ」と言って譲らないなど、とにかく大阪会議の邪魔ばかりしてきました。9月末の第

3回では、委員や傍聴の皆さんが全体会議の開催を待

っておられるにもかかわらず、代表者会議のなかで自

らが言いだして決定した「代表者会議は全会一致」

をくつがえそうとした上、

ど、会議の進行の妨害に終始しました。「なぜ全体会議でやらないのか」という

記者の質問に「大阪会議が進んでいるように報道されるのは損だ」と答えています。

なんとしても

「維新」は「都」構想という旗印がなくなれば存在

意義も、市民のために語るものもありません。11月の

を再び持ち出すしかなく、「二重行政」解消は「大阪都」構想でしかできない」と言いだすために大阪会議

を利用し、無理難題を持ちこんで決裂させることに終

始しているのです。

対立と不毛な論議ばかりの維新政治のもとでは市民

のくらしをよくする話し合いはできません。私たちは市長選では維新政治を終わらせるといって一点で自民党

「都」構想への「大阪会議」利用許さぬ

市議の柳本顕さんを自主支援します。なんとしても勝利し、そこからどんな大阪にするのかの政治の中身の議論を新しくスタートさせます。そのために力を尽くします。